

2018 アートマイル国際交流壁画共同制作プロジェクト 報告書

日本学校名 [立命館守山中学校・高等学校] 担当教諭名 [吉本 恵子・菊池 恵] (美術部 27名)

相手国・地域 [パキスタン]

海外学校名 [Modernage Public School & College(Girls)] 担当教諭名 [Mehreen Ansar]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教 科	単 元 名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	美術部	部活動・アートマイルプロジェクト	約50

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	私たちが未来に向けてできることは何か
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	To make peaceful world, we have to understand each other's culture!



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
ICT を活用することで、遠く離れた国の同世代と議論をしたり、交流することができる。 さらに、地域や文化が違ってても未来に向かって何かしなければならぬという思いは同じであるということに生徒たちが気が付いた。	美術部の部員だけでは作品を制作することに興味はあっても、交流することが苦手な生徒もいた。 来年度は、交流班と制作班とに分けて募集をしようと思う。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<p>生徒たちにとって、パキスタンは全く知らない国で、イメージは貧困や戦争、後進国であった。</p> <p>しかし、交流したパキスタンの生徒たちは本校の生徒より様々なことに意欲や知識があり、自分たちよりはるかに様々なことを深く真剣にとらえていると感じていた。</p>	<p>相手校の生徒の真剣さを子どもたちに伝えようと一生懸命に始めたが、なかなか進まなかった。</p> <p>しかし、作品を手掛け始め、交流を深めるうちに自主的に交流を楽しむようになった。</p> <p>子どもの自主性を引き出すことに集中するようになった。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
<p>出会い 自己紹介</p>	9月	<ul style="list-style-type: none"> ・パキスタンについての調べ学習発表展示。 ・生徒同士が自己紹介カードや動画を使用し、自己紹介、学校紹介。 	<ul style="list-style-type: none"> ・パキスタンについて何も知らなかったことに驚いていた。 ・パキスタンの生徒たちが、自分たちと同じ感覚を持っていることに驚いていた。 	部活動
<p>共有 テーマ学習</p>	10月	<ul style="list-style-type: none"> ・SDGsのテーマを参考にしながら、個々の生徒が、私たちが抱えている問題についてテーマを設定し、意見をカードにして議論し合った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・議論の中で、自分の予想を超えた深い内容や質問に、日本の生徒は驚いたり、とまどったりしていた。 	部活動
<p>融合 想いを形に ・メッセージ ・壁画デザイン</p>	11月	<ul style="list-style-type: none"> ・描くテーマやデザインについてフォーラムで事前に議論した後、Skypeで確認や交流を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・Skypeで時間を共有すると、相手国との交流に実感がわき、制作への意欲や、もっと交流を深めたいという意欲がわいてきた。 	部活動
<p>創造 壁画制作</p>	12月	<ul style="list-style-type: none"> ・小さい紙に下書きをし、その下書きを全員で共有しながら壁画を完成させた。途中経過はその都度相手国に確認しながら進めた。 ・飛び出すカードを一人ひとりメッセージを書いて同封し、送付した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・美術部なので作品制作はスムーズに進んだ。一つのイメージや描く技法を全員で共有しながらすすめた。 	部活動
<p>評価 振り返り 自己評価</p>	3月	<ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品や同封されていたメッセージカードを鑑賞。 ・自分たちの作品に込めたメッセージや意味と説明しあった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分たちの作品にうまく融合するように描かれた完成作品に驚くとともに、相手国の技術や想像力に驚いていた。 	部活動

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つけたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	3	作品のデザイン考えるときに、現代の日本文化をどのように表現可能かを議論した。日本の伝統文化と現代の自分たちの生活文化や意識を議論する必要がでてきたから。
異文化を理解する力	4	共同で作品を手掛けることをきっかけに相手の国の様々なことを理解しようとした。ニュースにも注目するようになった。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	5	本校は一人一台 iPad を持っており、ICT 活用能力は高い。さらに活用方法の幅を広げることができた。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	自分自身の意見をカードにして交流することで、もっと相手の意見を聞いてみたいと思うようになった。文法よりも伝えようとする気持ちが大切だと感じていた。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	3	意見交流する中で、自分の意見も発信していたが、調べ学習や相手の意見をそのまま受け入れることが多く、批判的に思考するまではなかなか難しかった。
主体的に考え行動する力	4	相手国はアートマイルが3回目なので主体的に考え行動するようにリードしてもらった。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	4	一つの作品を完成させるために、描くモチーフや色彩、デザイン、テーマを校内・相手校とも共有し、議論しながら進める必要があった。しっかり議論するとスムーズに協働し制作が進められた。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	5	日本側がデザインはリードしてすすめ、相手国は私たちにうまく融合したデザインを描いた。美術部員なのでスムーズに表現できた。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	同じ年代の相手国の生徒たちの反応の速さや、主体性、意識の高さを目の当たりにし、自分たちはどうなのかという思いで個々が振り返っていた。完成作品が返ってきたときは、想像以上の完成度や相手国の技術の高さに驚いていた。日本人同士では想像できるが、海外の生徒がどのように考えたり作品を創造するかは生徒たちにとっては未知の領域で、海外の生徒と交流するからこそ自分たちを振り返ることができたと思う。